

2025未来食品フォーラム (Food for Future Forum) 出席レポート (前編)

高齢者人口の増加は今や我が国に限ったことではなく、近隣のアジアの国々でも深刻な問題となっています。特に、韓国、台湾ではその急速な高齢化により2040年代以降は日本を超える高齢化率となることが予測されています。

このような中、先般3月に APEC Conference in Chinese Taipei 事務局より日本の介護食品事情についての講演オファーがあったことについては、本紙6月号でレポートしたところですが、今般、これを機にあらためて台湾で開催の2025未来食品フォーラム (Food for Future Forum) よりお声がけいただき、UDF の取り組みについて話題提供の機会を得ました。招待を受けたのは森会長ですが、伊藤技術委員長、事務局も同行いたしました。

■開催概要

会議名：2025台湾未来食品フォーラム
(Food for Future Forum)

<https://bw.businessweekly.com.tw/event/2025/FoodForFuture/#>

日時：令和7(2025)年6月26日(木)
台湾時間10:00~16:00

場所：台北南港展示ホール (TaiNEX)
2館701A 会議室

講演時間：各講演者30分

参加者数：約200名(産業界、政府機関、学術研究機関、メディア等より)

主催：財団法人食品工業発展研究所 (FIRDI)、
中華民國對外貿易發展協會 (TAITRA) 共催

目的：「高齢者向け健康食品のデザインとフレンドリーなイノベーション」をテーマに掲げ、台湾における産官学研の各界との密な交流を図る場として企画(「台北国際食品展 (Food Taipei Mega Shows)」(30カ国以上、1,700社超)の主要イベントの一つの位置づけ)

当日は、森会長による「ウェルビーイングに向けた日本の高齢者食について~日本のユニバーサルデザインフードの取り組み~」のタイトルにて、およそ30分の講演を行ったほか、現地台湾の産官学による講演がそれぞれ行われました。日本からは我々の他にアサヒグループ食品(株)も演者として招待を受けておられました(上記の URL から演者等の情

報をご覧くださいませ)。

同日午後からは、併催の「台北国際食品展 (Food Taipei Mega Shows)」視察の機会も得ることができました。「食品見本市」が大きな看板ですが、食品加工機器、食品容器包装、ホテルレストラン関連など台湾食品関連産業の総合展示会の趣でした。主に食品メーカーのセクションを拝見しましたが、ほとんどが4コマ以上の独立装飾小間であることにまず驚きました。しかもかなりの賑わいでした(4日間で46,000人ほどの来場があったようです)。ここに、いわば台湾のUDFである「Eatender (イーテンダー)」を取り扱う企業が数社出展しているとして、食品工業発展研究所の王怡晶先生による積極的なご案内を受けました。(次号へつづく)



登壇する森会長



ブースの案内を受ける様子

【会議、催事等の予定】

9月19日(金)~20日(土) 第31回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

【UDF 商品登録状況 (2,249品目・7月末現在)】

	区分1	区分2	区分3	区分4	とりみ調整	拡張	合計
乾燥食品	0	18	7	1	59	9	94
冷凍食品	333	258	786	45	0	0	1,422
常温食品	244	40	282	165	2	0	733
合計	577	316	1,075	211	61	9	2,249

【会員の異動 (7月)】

新規加入会員1社：(株)ヤマダフーズ
計97社 (7月末現在)。

◎日本介護食品協議会では会員企業を募集しています。協議会とユニバーサルデザインフードについては事務局までご連絡ください。

事務局：東京都千代田区神田東松下町10-2
翔和神田ビル3階
TEL 03-5256-4804
FAX 03-5256-4805
<https://www.udf.jp/>